

【一】 次の各問に答えなさい。

問一 次の①～⑮の各文の傍線部のカタカナを漢字で書き、傍線部の漢字の読み方をひらがなで書きなさい。

- | | | |
|---------------------------------|---------------------------------|----------------------------------|
| ① 世界記録を <u>ジュリツ</u> する。 | ② 仕事に <u>シンケン</u> に取り組む。 | ③ 家族に恋人を <u>シヨウカイ</u> する。 |
| ④ <u>しばらく</u> 家を <u>ルス</u> にする。 | ⑤ <u>ミッセツ</u> な人間関係。 | ⑥ 父は今日は <u>キゲン</u> が悪い。 |
| ⑦ <u>セーター</u> を <u>ア</u> む。 | ⑧ 諦めない <u>と心</u> に <u>チカ</u> う。 | ⑨ まもなく日が <u>ク</u> れる。 |
| ⑩ <u>伸縮自在</u> のゴムだ。 | ⑪ 自然の <u>恩恵</u> に感謝する。 | ⑫ 救急車の <u>出動</u> を <u>要請</u> する。 |
| ⑬ 資源の <u>乏</u> しい国。 | ⑭ 危険を伴う仕事だ。 | ⑮ 言葉 <u>巧</u> みに誘導する。 |

問二 次の①～③の語の対義語となる二字熟語を、後の語群の漢字を組み合わせさせて答えなさい。ただし、同じ漢字を二度以上用いてはならない。

- ① 浪費 ② 未開 ③ 現実

都	約	文	金	想	明	節	空	理
---	---	---	---	---	---	---	---	---

問三 次の①～②の言葉の使用例として最も適切なものを後の選択肢ア～エからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ① 押しも押されもせぬ

- ア 彼は押しも押されもせぬスター選手に成長した。
イ 彼は押しも押されもせぬほど落ちぶれてしまった。
ウ 彼は押しも押されもせぬただの一市民に過ぎない。
エ 彼は押しも押されもせぬ得体の知れない男だ。

- ② しのぎを削る

- ア 幽霊が出るといふ噂のトンネルを歩いたとき、しのぎを削る思いをした。
イ 二人はささいなことで口論して以来互いを無視し、しのぎを削る関係になった。
ウ レスリング選手の藤波君と長州君は良きライバルとして互いにしのぎを削った。
エ キュリー夫人は若い頃のしのぎを削るような努力をし、偉大な研究者になった。

問四

次の①～③の各文の内容と関係の深いことわざとして最も適切なものを、後の選択肢ア～カからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号を二度以上用いてはならない。

① わが岬高校柔道部は圧倒的な強さで県大会に優勝し、その後、全国大会に出場。日本一も夢じゃないと信じていたのに、まさかの一回戦負け。さらに我々に勝った学校も二回戦で敗れるのを見てがく然とした。

② 最近教室が汚いので、学級会で「先生、これからは放課後だけじゃなくて朝も掃除をしましょう！」と提案したら、すかさず先生に「そうだな、じゃあ、明日の朝から君にやってもらおうか」と言われた。

③ 海外勤務のため年間を通して平均気温三十度の常夏の国・マレーシアで生活している私のもとに、実家の母親から冬をしのげるようにと厚手のセーターが送られてきた。ありがたいのだが、使い道はなさそうだな……。

ア 雉も鳴かずば撃たれまい

イ 蛙の面に水

ウ 虻蜂取らず

エ 笛吹けども踊らず

オ 井の中の蛙大海を知らず

カ 月夜に提灯

【二】

次の文章を読んで、後の各問に答えなさい。なお、設問の都合上、問題文は省略されているところがある。また、この文章は一九八八年に発表されたもので、現在の日本国内の状況とは異なる内容の記述がある。

筆者は、日本語を勉強しているアメリカ人の友人に「日本人は『午後になってやっぱ雨が降ってきた』『この問題に関してはやはり私はこう思います』など、会話の中で『やはり・やっぱり』を多用しているが、『やはり・やっぱり』とはどのような意味なのか」と質問され、しばらく考えた後に「予想通り」という意味であると答えた。

で、私は彼にそう説明した。すると彼は目をまるくして、こういった。

「ほう、そうなんですか。してみると、日本人はみな予言者なんですね。何でも初めからわかっているんですから。わかっているから、やっぱりを連発するんでしょう」

たしかに、そういわれても仕方ないふしがある。やっぱり雨が降ってきた、というのは、予想していたとおり雨が降り始めた、ということである。自分が予想したにせよ、他人が予言したにせよ、あらかじめそう考えていたことに変わりはない。やっぱりを頻繁に使う日本人はすべてにわたって予感に似たものを抱いている、ということになる。

そう。日本人の特質は、つねに何かを予想し、予期しているということなのである。それはある種の運命観といってもいい。日本人はいつもその予感のなかで生きているのだ。

このことは、おそらく日本という風土、その自然環境と無関係ではあるまい。日本では——場所によって多少は異なるが——一年のうちで四季が三か月ずつに均等に配分されており、風月はまことに規則正しく循環している。まさしく、「暑さ寒さも*₁彼岸まで」という*₂ あんばいである。このような風土は、世界広しといえども、きわめて例外に属する。他の地域では四季にはたいてい長短があり、雨期と乾期はあっても四季など持たぬ国さえ多いのだ。

四季が均等に分かれたれ、歳月がきわめて規則的にめぐる風土では、何もかもがはっきりと見通せる。二月の末ごろに強い風が吹

くと、天気相談所に「この風は春一番か」という問い合わせが殺到するそうだが、それは、もうそろそろ「春一番」が吹いてもよさそうだと、多くの人がそれを予想し、予期しているからなのである。そして、気象庁が「本日吹いた風は春一番です」というと、日本人は「やっぱりそうか」とうなずいて安心し、新聞も大きな見出しでそれを報じる。同じことは「梅雨明け宣言」についてもいえよう。梅雨が明けたことをわざわざ宣言するというのは、日本人がみなそれを期待しているからなのだ。だからその期待にこたえなければならぬのである。そのような宣言によって日本人は「やっぱり」といって安心する。①これが「やっぱり」の風土的背景といつてよからう。

しかし、「やっぱり」にはもうひとつ、社会的な背景がある。それは日本の社会が世界でも珍しいほどの同質社会であることだ。地球上の多くの国々は民族と国民とが必ずしも重なっていない。^{*3}ソビエトや中国やインドやアメリカ合衆国などの大きな国はもとより、シンガポールのような小さな国でも多くの民族が集まってひとつの国をつくっている。民族が異なるということは、言語や宗教や習慣がちがうことであり、したがってそのような社会では人間関係がきわめて複雑である。

ところが日本の場合には民族と国民とがほぼひとつになっており、この意味で②たいへん気楽な社会だといえる。他国に見られるような^{*4}民族的な軋轢^{あつれき}はこの国にはない。日本的な合意^{コンセンサス}というものが、他の国の人びとから奇異な目をもって見られているようだが、そのような暗黙の合意が成り立つというのも、この国が同質社会であるゆえだ。

しかし、同質の社会というものは、だからといって、必ずしも手放しで気楽な社会というわけではない。同質社会には同質社会なりの圧力があるのだ。その圧力とは、おなじでなければならぬ、ということである。だからこそ日本はそのローラーによって、他のどんな国よりも——平等を理想とする社会主義国よりも、所得の格差が小さく、国民の大多数がみな「中流」をもって任じているのだ。九〇%以上の人がみなおなじ「中流」階級に属しているなどと思っている国は、ほかにない。

むろん、私はこれに異存があるわけではない。貧富の差がなく、国民の所得が平等に近いということは大いに結構なことである。だが、人それぞれの意見までがおなじ、となると話はべつになる。いくら同質社会といっても、各人の意見までがおなじでなければならぬという道理はないからだ。ところが、同質社会は、とかく考え方までがおなじでなければならぬように思いこませてしま

うのである。日本人が人いちばい世間体を気にするのは、そのような無言の圧力のせいである。世間体を気にするというのは、自分が人並外れてはいないかどうか、という（ X ）といつていい。

とうぜん、何かについての自分の意見を発表する際には、そうした配慮が働く。日本という同質社会では、おなじことがいいことなのであり、人並み外れた意見というのは白い目で見られるからである。べつに危害を（ a ）わけではないが、仲間外れにされてしまうのだ。日本人にとっては、仲間外れほどつらい仕打ちはない。なぜなら、仲間外れになるということは、日本人でなくなるような気にさせられることだからである。「バスに乗りおくれるな」とか、「梯子^{はしこ}を外される」という表現は、そうした仕打ちに対する恐怖を正直に語っている。

「やっぱり」とか「やはり」というこの慣用語は、じつは、その恐怖を無意識のうちにいいあらわしているのである。日本人が何かについての意見をきかれたときに、やたらに「やっぱり」や「やはり」を連発するのは、「私が思っていたとおり」という予言的な、つまり、自信に満ちあふれた立場の表明ではなく、「あなたをはじめ、みんながそう思っているように」「世間一般の人たちが考えているように」自分もそう思う、という意味の「やっぱり」なのだ。それは無意識のうちに世間におうかがいを（ b ）、「自分の意見がけつして人並外れた考えではなく、世間のみなさんとおなじように自分もそう考えます、ということ」を弁明する強調詞だといつてもいい。

だとすれば、数多くの日本語のなかで、③「やっぱり」、あるいは「やはり」という慣用語こそ、何より日本的な性格を正直に告白している言葉といえないであらうか。

*1 彼岸……春分の日・秋分の日を中心とした七日間。

*2 あんばい……具合、様子。

（森本哲郎『日本語表と裏』）

*3 ソビエト……一九二二—一九九一年の間に存在した社会主義国家。現在のロシア。

*4 民族的な軋轢……民族の間で争い合い、仲が悪くなること。

問一 問題文中の (a) (・) (b) () に入る言葉として最も適切なものを後のそれぞれの選択肢ア～エから一つずつ選び、記号で答えなさい。

危害を (	a	)	……	ア	下される	イ	加えられる	ウ	与えられる	エ	渡される
おうかがいを (	b	)	……	ア	当て	イ	作って	ウ	売って	エ	立て

問二 傍線部①「これが『やつぱり』の風土的背景といつてよからう」とあるが、日本人が「やつぱり」を頻繁に使う理由について述べている次の文の A・B に入る適切な言葉を、それぞれの字数に従って答え、文を完成させなさい。

日本の風土は (A 十八字以上二十三字以内) 特徴があるので、日本人は (B 五字以内) ことができるから。

問三 傍線部②「たいへん気楽な社会だといえる」について、次の (i)・(ii) の各問に答えなさい。

(i) 「たいへん気楽な社会」といえる理由について最も端的に述べている箇所を問題文中から探し、解答欄の「くから」にながるように十字で抜き出して答えなさい。

(ii) また、このような社会に生きている日本人に欠けていると考えられる能力として、最も適切なものを次の選択肢ア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 対立する考えの他者に対して安易に譲らず、意見を戦わせて議論しながら解決策を模索する能力。

イ 自分の利益にとらわれず、相手の事情を考慮する立場を基盤にした上で適切な処理へと導く能力。
ウ 一つのやり方にこだわることなく、柔軟な考え方に基づいて臨機応変に意見を調整していく能力。
エ 感情的な好ききらいに流されることなく、冷静に状況を把握して現実的に有効な手段を選ぶ能力。

問四 問題文中の (X) () に入る言葉として最も適切なものを次の選択肢ア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア	行き届いた心配り	イ	臆病なまでの配慮	ウ	抜け目のない計画性	エ	鋭すぎる感性
---	----------	---	----------	---	-----------	---	--------

問五 傍線部③「『やつぱり』、あるいは『やはり』という慣用語こそ、何より日本的な性格を正直に告白している言葉といえな
いであろうか」とあるが、なぜこのように言えるのか、説明しなさい。

問六 問題文の内容に合っているものを次の選択肢ア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 国民の所得が平等に近くほとんどの人々が同じ階級意識を持っていることは、格差が少ないということであり、それ自体は悪いことではない。

イ 「春一番」についての問い合わせが多いのは、日本人が季節の移り変わりを把握していないと強い不安に陥る性質を持つて
いるからである。

ウ 多民族国家においては価値観の異なる人々が混在しているので、全体が一つにまとまるためには指導者の強いリーダーシ
ップが必要とされる。

エ 日本人が「やつぱり」を頻繁に使用するのは、確信に基づいた予想をして、それが的中することで自信を持ちたがる国民
性によるものである。

【三】 次の文章は、筆者がアフリカのエチオピアという国を訪れた際、現地のムスラクという女性に案内を頼み、風変わりなスーリ族と出会った体験について書かれたものである。これを読んで、後の各問に答えなさい。なお、設問の都合上、問題文は省略されているところがある。

翌日夕、私はふたたびムスラクの食堂に行った。
恋人どうしらしい客が*¹インジェラを食べている。(中略)右手でちぎったインジェラを互いに相手の口に運んでやって、幸せそうだ。見とれていたら、ムスラクが「ほら、あそこに……」と店の外の草地を指さすではないか。
真つ赤な夕陽だった。

人が不思議な影絵に見えた。

ボロをまとった漆黒の男と、黒い乳房をむきだしにした半裸の女が二人して泥まみれの足で歩いていた。

女は唇に皿をはめていない。だが、私は息をのんだ。下唇の下部が唇の線に沿って横に切れている。

すなわち下唇は、両端を残して口から分離し、しかもそれは、伸びきったゴムのようにUの字形にあごの下まで垂れていたのだ。

男は二メートル近くの長身で、前方をまっすぐ見てのっしのっしと歩く。

男の*²耳朶には大きな穴が開いていて、そこからも夕陽がのぞけた。女は下唇をブランブランさせながら周りに鋭い視線を走らせている。

まちがいにスーリ族だ。伸びた下唇は皿を外しているからだろう。

二人を囲み村の子どもたちが「スルマ! スルマ!」とはやしたてていた。

男女は名前でもなく、正式種族名(スーリ)でもなく、「スルマ」の名で、珍種の動物のように*³ぞんざいに呼ばれていた。

*⁴アデイスアベバを*⁵発ち三日目でついに会ったスーリ族に、①しかし、私は感動した。

どうしてだろう。夕陽を浴びて歩く二人に、この世からの悲しい*⁵孤高を見たのだ。

唇をぶつかせた女と私の目が合った。女は男の手を引き近づいてきた。私の前に立って薄く笑った。

あいさつも忘れ、呆然と女の黒く小さな顔を見ていたら、彼女は垂れた下唇とあごのあいだから、赤黒い舌を突然ニユツと突きだしてみせて、喉の奥でグググと笑った。

私はひるんだ。でも皿が見たかった。

皿を唇にはめてはもらえまいか。

動作で私は頼んだ。そうしながら、②なにかの禁に触れていると感じた。

女は腹部を覆ったボロの中から円い土器を取りだし、垂れた下唇をさらに引き伸ばして、皿の縁にパテのようにはわせ、装着した。

すると、巨大な舌をベーツと出したみたいな顔になった。写真を撮った。③途方もない罪を犯している気がした。

ムスラクはまゆをひそめ、客はケラケラ笑い、村の子供たちは群がって「スルマ! スルマ!」と騒いだ。

撮り終えたら、女がお金をくれと手を出してきた。④それが当然という慣れた所作だった。

私は小銭を渡した。女は唇にはめた皿を上下にパクパク動かして怒った。

「こんなじゃ足りない!」

そう言っているようだ。いっしょの男もバタバタ足を踏み鳴らして怒った。

「スルマ、もうよしなさい!」

ムスラクが激しく叫んだ。騒動になりそうだった。運転手のタフアリが実力でスーリ族の男女を押さえつけそうになった。結局、私はまたお金を渡した。

二人は夕焼けの草原に戻りふたたび

X

になり、消えた。

スーリ族は、エチオピアの支配民族アムハラ族がアラビア半島から移住してきた紀元前十世紀ごろよりさらに以前から南西部に

住み、独自の牧畜文化を持つ、じつに誇り高い民族（推定人口五千人）である……と私は聞いていた。だから、⑤*⁶ アマンで出会った男女の挙動に私は驚いた。

「つまるところ、スーリ族の女性の口にしに興味を持たなかったのよね」

アマンのホテルで知りあった国連難民高等弁務官事務所のエチオピア人女性メスフィンは言った。

外部世界は、という主語が省略されているが、あなたは、と言われた気がしてギクリとした。

近年、イタリアなどの旅行会社が「秘境ツアー」と称してスーリ居住区域に観光客を送りこんでいる。テレビ局や写真家も入った。口に皿をはめた女性の写真を撮ってはお金を払い、スーリ族の多数がそれを当たり前と考えるようになったのだという。

「文化の破壊だわ」

そう言う彼女もニブル（約三十六円）払って撮ったという、ひととき大きい皿を唇にはめたスーリ女性の写真を得意気に私に披露するのだった。

（ 中略 ）

アマンを去る前日、ムスラクの店で私はショウガ入り紅茶を飲んでいた。

突然店の前にスーリ族六人が現れた。私がお金をあげた男女もいた。

私の顔を見るや、並んで手拍子を取り大声で合唱をはじめた。

「あなたがあげたお金でお酒を買って、酔っぱらって来たのよ」

ムスラクがなじった。

歌詞がわからない。メロディーも聞いたことがない。一節ごとに、音程が尻上がりになったり急に下がったり、なにか心が揺さぶられる歌だ。なぜだか、私の目を全員がじつと見つめてうたっている。

皿をはめたまま*⁷ ハミングしている女もある。たしかに酒臭い。でも、素晴らしい声が波のように草地をうねった。

牛をたたえる歌なのかもしれない。ひよつとしたら私への送別の曲かもしれない。ほんの少しだけれど、やっと最後に

Y

と思った。

⑥ コーヒーの香りをほろ苦く感じつつ、私はアデイスアベバへの道を引き返した。

（辺見庸『もの食う人びと』）

*1 インジェラ……エチオピアの主食。

*2 耳朶……耳たぶ。

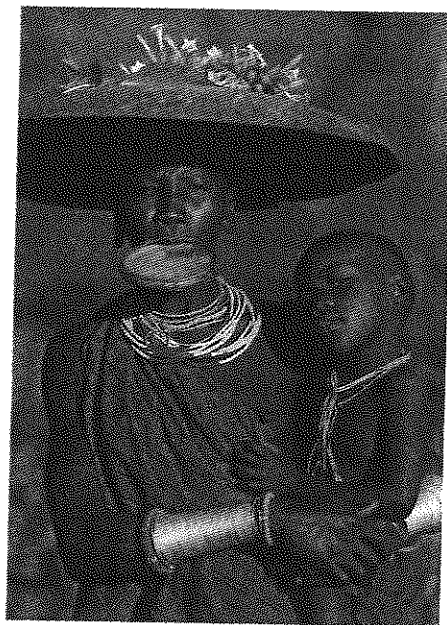
*3 ぞんざいに……いい加減に・乱暴に。

*4 アデイスアベバ……エチオピアの首都。

*5 孤高……ひとりだけ他を寄せ付けず、気高く優れていること。

*6 アマン……エチオピアの都市。

*7 ハミング……口を閉じ、旋律だけを歌うこと。



問一

傍線部 a「息をのんだ」 b「まゆをひそめ」とあるが、これらの慣用句が表現している人間の感情として最も適切なものを次の選択肢ア～オからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア 喜び

イ 寂しさ

ウ 驚き

エ 悲しみ

オ 不快

問二 傍線部①「しかし、私は感動した」とあるが、スーリ族のどのような様子に対して「感動した」のか。最も適切なものを次の選択肢ア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 物質的に豊かになっていく世界全体の波に乗り遅れ卑屈になりながらも、仲間同士身を寄せ合って生きている様子。
イ 世界中が西洋の文化に影響されていく中で、それをあえて否定して原始的生活様式にさかのぼろうとしている様子。
ウ 自分たちの文化を知性的ではないと決めつけて軽蔑する周囲の態度に対し、攻撃的な姿勢をもって臨んでいる様子。
エ 近代化や発展を目指す世界の流れに取り残されながらも、自分たちの独自の文化を失わずにいようとしている様子。

問三 傍線部②「なにかの禁に触れていると感じた」③「途方もない罪を犯している気がした」とあるが、筆者は自分の行為をどのようなものと感じたのか。「誇り」という言葉を必ず用いて、三十字以上四十字以内で説明しなさい。

問四 傍線部④「それが当然という慣れた所作だった」とあるが、スーリ族がこのような理由を最も明確に述べている一文をこの傍線部より後の問題文中から探し、最初の五字を抜き出して答えなさい。

問五 問題文中の X に入る最も適切な言葉を、この空欄より前の問題文中から探し、漢字二字で抜き出して答えなさい。

問六 傍線部⑤「アマンで出会った男女の挙動に私は驚いた」とあるが、その理由について述べた次の文の（ ）に適切な言葉を三十字以上三十五字以内で答え、文を完成させなさい。

スーリ族は誇り高い民族と聞いていたのに、（ ）

三十字以上三十五字以内

（ ）から。

問七 傍線部⑥「コーヒーの香りをほろろ感じつつ、私はアディスアベバへの道を引き返した」とあるが、この時の筆者の心情についてA太君、B子さん、C吉君がそれぞれ感想を述べている。後の（i）～（iii）の各問に答えなさい。

A太 … 外国人たちがスーリ族の生活している地域に入り込んだことで、（ ） 1 （ ）をもたらししてしまったんだね……。
僕たちも複雑な心境だな。

B子 … このことについては、村を訪れた筆者自身も（ ） 2 （ ）感をもっているようね。周囲に漂うコーヒーの香りも、ほろろろ感じているんだわ。

C吉 … スーリ族は異様な外見だけが注目されるけど、本来彼らは詩や歌を愛する創造性豊かな民族なんだって。最後に歌をうたう彼らの姿を見て、筆者も Y ような気がして少し救われた気持ちになっているんだね。

（i） A太君の発言の中の（ ） 1 （ ）に入る言葉を五字以内で問題文中から抜き出して答えなさい。

（ii） B子さんの発言の中の（ ） 2 （ ）に入る適切な漢字二字の語を考えて答えなさい。

（iii） C吉君の言葉と問題文中の Y には同じ言葉が入る。最も適切な言葉を次の選択肢ア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 彼らと親友になれた イ 彼らの心に触れた ウ 彼らの考えを理解できた エ 彼らの力になれた

《問題は以上です》

解答用紙

受験番号	
氏 名	
得 点	

問四	問二	問一		
①	①	⑪	⑥	①
②	②			
③	③	⑫	⑦	②
	問三			
	①		む	
		⑬	⑧	③
	②			
		しい	う	
		⑭	⑨	④
		う	れる	
		⑮	⑩	⑤
		み		

[illegible][illegible]